




令和3年 1月 22日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 伊藤 修一 
副査 川上 晋史 
副査 山口 藤幸 

今般 吉野 夕香 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目 建設業従事者の歯の喪失に自己効力感が及ぼす影響
- 2 論文要旨 別添
- 3 学位論文審査の要旨 別添（様式第12号）
- 4 最終試験の要旨 別添（様式第13号）

以上の結果 吉野夕香 は博士（歯学）の学位を授与する資格のものと判定する。

学位論文審査の要旨

主査 伊藤 伸一
副査 川上 賢史
副査 加藤 幸紀



氏 名 吉野 夕香

学位論文題目 建設業従事者の歯の喪失に自己効力感が及ぼす影響

以下本文（15行目から1000字以内）

本研究では、自己効力感（Self-efficacy：SE）によって歯の喪失状況や口腔衛生状態および口腔保健行動が長期的に予測できるかどうかについて調査を実施し、検討を行うことを目的とした。

北海道某町内の建設業従事者で、2009年から2018年に企業健診の一環として実施した歯科健診の受診者425名のうち、（1）2009年から2014年のいずれかの時点で歯科健診を受診し、（2）（1）の歯科健診から5年後の歯科健診を受診した者160名を対象とした。対象者のうち、（1）無歯顎者、（2）アンケート未回答者、（3）初回の歯科健診時点で45歳未満の対象者を除外した61名を分析対象とした（男性：54名、女性7名、平均53.68±6.03歳）。分析に用いた指標は、喪失歯数、Community Periodontal Index（CPI）、Simplified Oral Hygiene Index（OHI-S）、Self-Efficacy Scale for Self-care（SESS）、定期受診の有無、ブラッシング回数、喫煙の有無であり、歯科健診および自己記入式の質問票によってデータを収集した。

5年後の各々の従属変数とした重回帰分析の結果、喪失歯数と喪失歯率の場合でブラッシングのSEで有意な標準偏回帰係数が得られた。またOHI-Sでは、食生活のSEのみで有意な標準偏回帰係数が得られた。定期健診の有無を従属変数とするロジスティック回帰分析では、歯科受診のSEで有意なオッズ比が得られた。

本研究の結果から、ブラッシングに関するSEが高い程喪失歯数が低いことが明らかとなり、歯の喪失に対するブラッシングのSEの重要性が示された。また、食生活のSEが歯垢の付着状況に、歯科受診のSEが定期受診の有無に影響を与えており、口腔衛生状態や口腔保健行動に対してもSEが影響を及ぼしていることが示された。

本研究は周到な研究計画と統計解析とによって遂行され、また得られた結果は歯科医学のみならず、健康科学ならびに関連学科学の進歩と発展に寄与することが大きいと判断される。また、提出された本論文は多くの文献を参考に、方法、結果についての充分かつ妥当な考察が加えられており、審査の結果、学位授与に値すると判定した。

最終試験 (学力の確認) の要旨

主査 伊藤 修一
副査 川上 智史
副査
副査 山口 藤幸紀



氏 名 吉野 夕香

以下本文 (10行目から200字以内)

「建設業従事者の歯の喪失に自己効力感が及ぼす影響」について、研究発表会および論文審査に際し、研究目的と得られた成果を明確に説明し、質疑に対して適切な回答を為し得たので、学位授与に相応しい学力があるものと認められた。